

令和元年度第 1 回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和元年 5 月 31 日（金） 15：00～
場所	第 2・3 委員会室
出席者	小磯 修二（一般社団法人地域研究工房代表理事）
	橘内 勇（学校法人鶴岡学園北海道文教大学副学長）
	切明 毅（学校法人滋慶学園事務局長）
	高橋 正樹（北洋銀行恵庭中央支店長）
	高島 信之（北海道銀行恵庭支店長）
	大溝 宏（連合北海道恵庭地区連合会長）
	山谷 秀治（千歳公共職業安定所（ハローワーク所長））
	安保 貴弘（恵庭商工会議所青年部（宏和建设株））
	矢崎 哲夫（恵庭工業クラブ（サッポロビール株））
	佐藤 康介（社会保険労務士）
議題	（1）平成 30 年度地方創生推進交付金効果検証について
	（2）平成 31 年度地方創生推進交付金・拠点整備交付金採択状況について
	（3）国の第 2 期総合戦略について
	（4）市営住宅柏陽・恵央団地建替事業の事業概要について
	（5）恵庭の「まちづくり」について

発言者	内容
司会	<p>【次第 1. 開催あいさつ】 企画振興部次長 大西より開会のあいさつ。</p>
市長	<p>【次第 2. 市長あいさつ】 委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。令和元年第 1 回目の創生懇談会となります。恵庭市では委員の皆様からのご意見をいただきながら地方創生に関わる総合戦略を策定し、総合戦略に沿った施策を市の施策として推進しております。</p> <p>恵庭市は来年、市制施行 50 周年という節目の年を迎えます。新たな令和の時代の「まちづくり」をどのように考えていくべきか、皆様方からのご意見を伺うことは、私ども市政を担う者にとって大変貴重な機会だと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>加えて市政各般にわたり、ご支援ご協力をいただいている委員の皆様にご心</p>

	から感謝を申し上げまして冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。
司会	事務局の紹介。 配布資料の確認。
事務局	【次第3. 恵庭市総合戦略と恵庭創生懇談会について】
司会	【次第4. 恵庭創生懇談会委員あいさつ】 千歳民報社の尾野様、北海道石狩振興局地域創生部長の渡邊様の欠席を伝える。
各委員	委員自己紹介
司会	【次第5. 座長選任】 事務局案：座長 小磯委員、副座長 渡邊委員として委員に諮る。 委員は全員一致で事務局案を了承、承認。 以下、座長あいさつ。
座長	改めてよろしくお願いいたします。地方創生の取組みは政府が進める政策として非常に関心の高いものでしたが、先の見えない作業で大変だったと思います。その中で恵庭市は、国の政策を自分たちの施策にうまく取り入れて進めてきていると思います。これから国がどのような政策を示すのかわかりませんが、国の政策を上手く取り込んだ、恵庭市は恵庭市のやり方があると感じています。これからも政策を振り返り、検証し、恵庭市独自の想いをもって、地方創生を進めていただけたらと思います。 それでは議事に沿って進行してまいります。
事務局	【次第6. 議事】 (1) 平成30年度地方創生推進交付金効果検証について
座長	ご質問やご意見はございますか。
I委員	8 ページ目に担当者のコメントの中で「恵庭市の知名度の低さを改めて実感した」とありますが、具体的に何をもってそのように感じたのか気になりました。
事務局	こちらは台湾に出向き、商談会などを実施している事業となります。「北海道」の知名度は高いのですが、「恵庭」となるとなかなか難しいと感じております。
座長	なかなか海外では難しい課題ですね。 市長は地方創生推進交付金事業の総括的な評価としてどのように感じていますか。
市長	「サイクルフェスタ・恵庭」に関しましては、多くの方にご参加いただいております。食事をしていただき、お土産もあるものですから大変好評で参加者が伸びております。北広島市でも同じような事業を行っているようなの

	<p>で、連携することで、さらなる広がり生まれるかと考えておりました。</p> <p>移住に関しては、道外の若いご家族が北海道への移住を検討してくださっているようです。恵庭市を見学に来てくださった方にはオーダーメイドツアーとして、ジャンボタクシーで市内の様々な施設や分譲地を見ていただいています。来てくださった方は高い確率で移住してくださっているようです。</p>
事務局	<p>昨年度はオーダーメイドツアーを 13 件行いまして、4 組が移住しています。さらに、4 月に 3 組が移住していて、13 件中 7 組が移住しています。</p>
市長	<p>首都圏などで移住フェアに出展すると、恵庭市のブースに 40 組程度の方がいらっしゃいますが、就職口と住居の問題があります。恵庭市では賃貸住宅の紹介、求人情報の資料もその場でお渡ししております。その中から実際に見に来てくださった方にオーダーメイドツアーを実施しているのですが、非常に成功していると感じております。</p>
座長	<p>移住の取組みは他の自治体からみるとうらやましいお話ですね。「サイクルフェスタ」の北広島市との連携は大事な取組みだと思います。</p> <p>他にご意見、ご質問はありますか。</p>
H 委員	<p>「若者定着促進広域連携事業」に関してですが、学校として関心があります。資料に高校生向けの就職セミナーを行ったと掲載されていますが、次のステージでは、製造業、医療系と業種ごとに目標を立てられると、高等教育機関として恵庭市に貢献できる人材を育成することを考えられるかと思いました。</p>
市長	<p>もちろん、高校生だけでなく、大学生、専門学校生の方にも卒業後、恵庭で働いていただけたらと考えております。ただ、高校生に市内で働くことをイメージしていただくためにも、恵庭市内にどのような企業があるかを紹介するセミナーを行って、企業情報を発信しています。</p>
H 委員	<p>経済部長から市内の農家さんの数が減っているという話を聞きました。地方創生の一環になると思いますが、農家の人手不足を解決する方法を考えることも視点に入れて目標を立てられたらいいのかと感じました。</p>
I 委員	<p>補足させていただきます。ハローワークと恵庭市で連携して、高校生に実際に企業での仕事を見ていただく就業体験を行う予定です。高校生の就職では保護者の方の意向も重要なものですから、保護者向けのセミナーも行っています。北海道では就職から 3 年以内の離職者が多いので危惧しており、いろいろと企画しています。</p>
座長	<p>今のご意見はこれまでの創生懇談会でも大きなテーマになっていて、地元で学んだ若者に地元で就職して残ってもらう取組みですが、保護者への対応を含めて難しいテーマだと思います。働き方改革と同時に人手不足の問題</p>

	<p>は、人口が減少していく中で地域の経済、産業をどのように維持していくか、地方創生の大きな論点だと改めて感じました。</p> <p>地方創生推進交付金の効果検証についてはご了解をいただいたという形で進めさせていただきます。</p>
事務局	<p>【次第6．議事】</p> <p>(2) 平成31年度地方創生推進交付金・拠点整備交付金採択状況について</p>
座長	<p>新しく委員になった方もいらっしゃるので、地方創生推進交付金、拠点整備交付金についてご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>両交付金とも補助率1/2で、内閣府の採択を受ける形になります。事業費が高額のものは内閣府の外部有識者審査を受けて採択されます。総額は推進交付金が1,000億円、拠点整備交付金が600億円です。</p>
座長	<p>補足すると、地方創生推進交付金は5年前、補助率100%の地方創生政策の目玉として期待されていましたが、平成28年度から補助率が1/2になりました。恵庭市ではうまく活用して必要な事業を進めていると思います。拠点整備交付金は、推進交付金ではカバーしきれないハード面を支援するものです。補助率1/2なので有利かどうか難しいものです。これについてのご質問があれば伺いますが、いかがでしょうか。</p>
市長	<p>これまで平成27年度から地方創生推進交付金を活用して「まちづくり」を進めてまいりました。こうした制度がないと、事業を全て市の単費でまかなう必要があり、なかなか事業自体に手がつけられなかったのですが、地方創生の計画に乗せることで補助が受けられる形になり、新しい事業を始めることができました。恵庭市の「まちづくり」は国の第2期総合戦略で交付金がどうなるかに懸かっています。交付金がなくなって市の単費で全てまかなうとなると、廃止しなければならない事業が出てくる可能性もあります。</p>
事務局	<p>【次第6．議事】</p> <p>(3) 国の第2期総合戦略について</p>
座長	<p>資料3の9ページの意見はどのようなものですか。</p>
事務局	<p>東京で開催された地方創生の交付金の検証会での意見をまとめたものです。</p>
座長	<p>これについてご質問やご意見はございますか。</p>
H委員	<p>6ページに幼児教育・保育の無償化がありますが、同時に高等教育の無償化も進められています。まだ正式な書類の形式などは示されていませんが、恵庭市には高等教育機関が3法人あることから、情報共有していきたいと思えます。</p>
座長	<p>国の資料をベースにしていますが、地域として関心を持つべきですね。</p>
事務局	<p>【次第6．議事】</p>

	(4) 市営住宅柏陽・恵央団地建替事業の事業概要について
市長	補足させていただきます。「まちづくり」の観点で市営住宅の建替を検討しておりますので、創生懇談会の場で発表させていただきました。この事業は非常に大きな事業で、市営住宅を3棟建てるほかに、賃貸住宅を民間に建てていただき、借上げ住宅とすることも想定しています。現在も入居者がいることから様々な課題がありますが、必要な事業ですので、皆様方にご説明をさせていただきました。
座長	皆様それぞれの立場からの助言、アドバイスも大事な役割だと思います。民間事業者の感触はいかがですか。
事務局	基本計画を策定するにあたり、民間活力導入可能性調査を行いました。基本的な土地利用について民間事業者から意見をいただき、市からの質問に回答いただいたところ、事業実現の可能性が高いという結果になりました。
座長	公営住宅の建替えに民間事業者が関わり、「まちづくり」の要素を組み込むとなると様々な課題が出てくるとは思います。具体的なお話はありましたか。
事務局	まだ市から詳細については示せていないので、具体的なお話はこれからになるとは思います。
事務局	補足させていただきます。民間事業者にとって気になりなのは建設のスケジュールです。現在の入居者が移転することを前提としておりますので、スケジュール管理が問題です。加えて、2020年の東京オリンピックの建設ラッシュで建設事業が高騰しています。工期が長期にわたることから、建設者を確保できるのかという問題もあると思います。
座長	私が気になったことは、公営住宅の移転に対して、民間事業者の立場からのリスクにどのように関わり、どのようにサポートしていくのか。なかなか難しいと感じました。
市長	難しいところだと思います。平屋の市営住宅を高層化し、余剰地で商業施設というところが1つのメリットで、首都圏などの地価が高いところだと民間事業者も興味を持っていただけますが、恵庭の場合、見極めも必要になってきます。市内の分譲地は非常に好評なので自信がありますが、民間事業者の注目度を考えなければなりません。市営住宅入居者の住み替えについても民間が関わることは難しいことなので、市で大きく関わっていかざるをえないように感じています。
座長	ご質問はございますか。
J委員	建替後の戸数は現状と比較してどうなりますか。
事務局	減ります。
J委員	市営住宅の需要はどのような状況ですか。

事務局	平成 30 年度は地震の影響もあり、通常 3 回行う募集を 2 回行いました。6 月に 10 戸の募集に対して 45 名の応募があり、1 月には 5 戸の募集に対して 23 名の応募がありました。入居を希望されている方はたくさんいるようです。
市長	全体的に市営住宅の需要はあると感じています。市営住宅の建替は 140 戸と少なくなりますが、民間の賃貸住宅を借り上げることも想定しています。
J 委員	借上げというのは非常にいいと思いますが、新たな建物を建設するという考えですか。既存の賃貸住宅で空室のところがあられるようですが、そういったところを活用するという考えはいかがですか。
事務局	既存の賃貸住宅を借り上げてという考えもありますが、不動産会社とも協議した結果、管理の都合上、全棟もしくは 1 棟、フロアごとといったようにある程度まとまっていないと難しいようです。条件が合致する既存の建物があれば、民間事業者と連携して進めていくというところです。
座長	この提言書は非常に丁寧に取りまとめられていますね。中学生などの若い世代の思いを繋げていく姿勢が非常に重要ですし、そこからヒントが得られることがありますので、活かしていただきたいと思います。 議事の最後に恵庭の「まちづくり」についてということで、これ以降は自由な意見交換の場として進めていきたいと思いますが、今回初めて参加された方もいらっしゃるの感想も含めて伺いたいと思います。
A 委員	移住の取組みがありました。道外からの移住が多かったのか気になりました。
事務局	オーダーメイドツアーにいらっしゃる方は、本州での移住相談会で恵庭に関心を持っていただいた方が多いようです。相談会では時間が限られていることもあり、冬の生活を体験していただくためにもぜひ恵庭にお越しください。よろしくお願いいたします。
A 委員	実体験が重要なのかなと思いました。ありがとうございます。
B 委員	札幌の地下鉄で恵庭市のポスターを見て、デザインもキャッチフレーズもいいと思いました。「関係人口」という言葉がありますが、恵庭市外に住んでも恵庭のことを気にかけている人が増えると、まちが元気になる力になると思います。昨年、気になった SNS の投稿があり、知人とも話題になりましたが、SNS を含めた「発信」という部分は非常に重要だと思います。
C 委員	資料を拝見すると、人口も増加していて移住の取組みも実績があり、新規の起業も 16 件ということで、非常に活気がある印象を受けました。先ほどもお話がありましたが、広告や案内も含めた SNS での発信がこれからますます重要になっていくと感じています。公営住宅の話の中で空いている賃貸住宅のお話がありましたが、札幌の企業では外国人の雇用を増やすにあたって、

	<p>住居を札幌市内に限らず近隣の市町村を視野に入れて探しているとの情報があります。「まちづくり」としての、外国人の受入れサポートやルール作りといった支援が必要になっていくのではないかと考えております。</p>
D 委員	<p>恵庭はガーデニングのまちのイメージがありますが、ひとえに恵庭市、市民の皆さんの努力があつてのことと感心しております。札幌市と新千歳空港の中間という立地にも恵まれ、花のまちを発信するのにあたって、北海道で行われているガーデンツアーに組み込まれるといいのではないかと思いました。インバウンドや外国人労働者も上手に取り入れることで、まちの活気に繋がると思います。</p>
E 委員	<p>3年生の担任をしています。総合学習で「恵庭 PR 大作戦」という取り組みをしています。その時に、様々な体験をすることで恵庭のことを理解して、恵庭のまちのことを周りに広めていけるようになるのではないかと感じました。去年はガーデニング、すずらん踊りなどを体験しましたが、時間が経っても経験したことは覚えているようです。小さい子どもの頃から恵庭のいいところに気がついて、大人になったときには発信できるというのが重要になっていくのではないかと感じています。</p>
G 委員	<p>共働き家庭の増加により、一人で食事を摂る子どもたちも増えており、大きくなったときに他人とのコミュニケーションに課題を抱えていることが教育の現場で問題になっていますので、柏陽・恵央地区懇談会の提言書のご意見は非常に重要だと思います。これから「まちづくり」を考えるときに、高齢者の孤独死の問題もありますので、地域の方々に新たな誰もが孤立しない「むら」を作るような視点で取り組んでいただけたらと思います。</p>
H 委員	<p>未来技術×地方創生や Society5.0 を意識した教育の展開は、専門学校としても重要だと感じています。農業の人手不足の話題が出ましたが、ドローンの人材の養成を始めたところです。災害対応に向けて消防と連携していますが、実際の現場で役立つことが実感できるので学生のモチベーションアップにも繋がっているようです。恵庭市がドローン特区として認可されると近未来に向けた産業の推進、ひいては若者の定住にも繋がると思います。</p>
I 委員	<p>ドローンの話題が出ましたが、ハローワークでも季節労働者向けの講習科目として取り入れていまして、そういった新しい技術が人手不足の解決に繋がるのではと感じています。恵庭市、千歳市は人口が増加していますが、道内のほかの地方に行くと働き手がいらないという限界集落がたくさん出てきており、おそらく今後 10 年の間に自治体として成り立たなくなる市町村が出てくるのではないかと危惧しています。それを考えると、外国人労働者、技能実習生は非常に大きな要素となってきています。多言語対応のルール作りや、生活支援体制を整えて地域のコミュニティに溶け込んでいただくこと</p>

	<p>で、外国人労働者が戦力になると思います。また、そういった方々は「発信力」がありますので、ぜひ恵庭市で準備を進めて繋がりを深めていただきたいと思いますと考えております。</p>
J 委員	<p>恵庭市の「まちづくり」について家族で話をしたところ、映画館や宿泊できる温泉がほしいという意見が出ました。立地にも恵まれていて、住むのには非常に便利なまちだと思っていますが、「楽しめる要素」が加わるとよりよいまちになっていくのではないかと思います。</p>
座長	<p>様々なご意見をいただきましたので、市長から一言いただけますか。</p>
市長	<p>たくさんのご意見をお聞かせいただきまして、ありがとうございます。外国人労働者に関しては、現在 400 名程で昨年 80 名程増加しました。これからも増加傾向が続くと考えておまして、外国人労働者を雇用している事業者からのヒアリングも含め、どこに住んでいて、どのような生活をしているのかを調査することが重要だと思います。地域のコミュニティに参加していただくなど、恵庭市は外国人労働者にとっても住みよいまちだと思っていただけるような「まちづくり」を考えなければなりません。</p> <p>ドローンなどの未来技術につきましても、AI やロボットを行政の業務にどのように取り入れていくか考えなければならない時代になりました。新しい時代に向けて、どのような「まちづくり」をしていかなければならないのか、これからもご意見をいただけたらと思います。</p>
座長	<p>外国人の方々との共生は非常に大きなテーマで、ヨーロッパでも移民との共生、融合は大きな課題になっています。その中で、一番の問題は言語で、北欧の先進都市では子どもの頃からの言語教育に力を入れているようです。日本でも人口減少時代に向けて舵を切る必要があり、将来を見据えての取組みが重要になってくると思います。</p> <p>事務局から連絡事項をお願いします。</p>
事務局	<p>【次第 7. その他】</p>
座長	<p>それでは第 1 回恵庭創生懇談会を終了します。ありがとうございました。</p>
一同	<p>どうもありがとうございました。</p>